国士舘100周年創立記念祭

剣道部

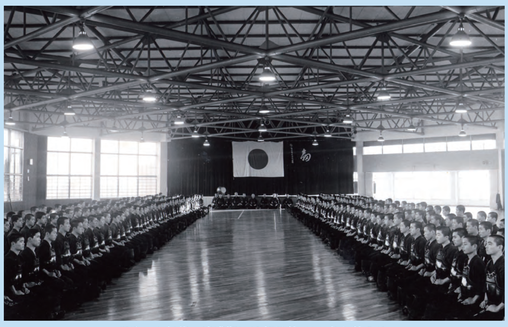
国士舘大学剣道部の歩み

昭和31年国士舘大学体育学部開設に際し、創立者柴田徳次郎先生により、持ち前の剣道力量と人間性を高く評価された大野操一郎先生は体育学部教授として、島根県から着任が待たれていた。

当時54歳で本学体育学部教授として着任された大野先生によって、体育学部と同時期に国士舘大学剣道部が発足した。第1期生の15名にはじまり、第2期生約20名と各期をおうごとに部員数も徐々に増していった。しかし、当時の寮生活が想像以上に厳しく、一夜にして多数の学生が寮を脱出し、結局卒業できたのは半数程度だったと伺っている。

昭和34、35年頃から、剣道部としての充実した活動が始まっていた様に聞いている。5時起床、直ぐ点呼、次は剣道場と校庭内の清掃、終わるとただちに早朝稽古が開始される。朝稽古は基本を中心として約1時間、夕稽古は試合シーズンには、試合稽古を組み込みながら、地稽古を中心として約2時間行われ、今尚その稽古体制を守り行っている。ここで剣道部の歴史を伝える意味からも書き止めて置きたい事柄がある。それは、剣道界の最高峰である錚々たる指導者に恵まれた事であり、同時に大いなる誇りとして記憶に残して欲しい。まず範士九段大野操一郎先生を中心として、外部から師範として、範士十段斎村五郎先生を筆頭に、範士九段堀口清先生、範士九段小野十生先生、範士九段阿部三郎先生、範士八段伊保清次先生をお迎えし、一同に会した元立稽古は、想像を絶する程見応えがあり、終始気迫の籠った稽古風景が展開されていた。数知れない諸先輩方々の汗と努力の一歩一歩が形として現れる時をついに迎える時が来た。記念すべき剣道部の初優勝（昭和34年5月）関東新人戦剣道大会であった。大野部長先生はじめ選手はもとより、この日を待ち望んでいた舘長先生の喜びは大変なものであり、選手全員に「名将言行録」全5巻が贈られ、この事は選手の心を深く感銘させた。剣道部の良き理解者として常に心に止め、剣道部を育て上げて下さった舘長先生に纏る話しにふれておきたいと思う。舘長先生は大の負けず嫌いで、世田谷六大学剣道大会での優勝を大いに褒め称えてくれた。その後、昭和37年全日本学生剣道優勝大会で3位を収めることが出来た。全国大会での初入賞であり、鬼の首を取った意気込みで舘長先生に報告に向かった。ところが、事もあろうに、選手の目前で賞状を破り、足で踏みつけたのである。この狂気とも思われる行動の裏には、どんな小さな大会でも勝つこと、3位に甘んじてはならない……との厳しい教えがあり、国士舘大学剣道部の名を天下に轟かす原動力となっている事を忘れないで欲しい。わずか15名程で始まった部員数も隆盛期には500名を数えたが、現在は平成12年に体育学部武道学科が開設され、男女合わせて186名の部員数で稽古に励んでいる。多摩校舎剣道場に移転した今も、脈々と流れる剣道部魂は先輩から後輩へと、しっかりと受け継がれており、この先々も絶える事の無い伝統を誇りに思い、堂々と大道を歩み続けて欲しいと願っている。

柴田徳次郎館長と川添哲夫
（第 19 回全日本剣道選手権大会　大学生初優勝記念）


昭和 40 年代　隆盛期には部員数 500 名を数える

昭和 43 年度　学生剣道大会初の 3 冠達成

第 18 回全日本学生大会　団体優勝祝賀パレード（昭和 45 年）

第 37 回全日本学生剣道優勝大会　10 度目の団体優勝（平成元年）

第 8 回全日本女子学生剣道優勝大会　団体優勝パレード（平成元年）

第 60 回全日本学生剣道優勝大会（平成 24 年）